



「2025年3月ダイヤ改正」に関する申し入れ【工務関係】

1. 保守間合いの確保に向けて、2024年ダイヤ改正以降の各系統での取り組みを明らかにすること。また、保守間合いの確保に関する各系統の考え方を明らかにすること。

【会社回答】

作業従事者の環境改善に繋がる取り組みを継続し、働き方改革や鉄道設備保守の推進によるサービス向上を図ってきた。なお、保守間合いは、列車ダイヤへの影響があることから、引き続き関係箇所と調整を図っていく考えである。

【組合】保守間合いの確保に向けた考え方や、これまでどのような取り組みを行ってきたのか？

→ **保守間合いは確保できるところは確保していく必要があると考える。**しかし、列車ダイヤの影響を受けるためバランスを見ながらの判断となる。

【組合】今後の考え方については？

→ 昼間工事などは成果がある。お客さまから理解を得られるものであれば進めていく。まずは水郡線などから進めているもの。常磐線について現在検討はしていない。**設備系統と運輸系統の連携は取れている。双方の主張を尊重しながら調整を行っている。**定期的に意見交換などもおこない、以前より理解は得られやすく連携は取れている。

2. 停電間合い・瞬時停電間合い・切替停電間合いについて会社の考え方を明らかにすること。また、継続的な間合い確保を行っていくこと。

【会社回答】

各種停電間合いについては、列車ダイヤへの影響があることから、引き続き関係箇所と調整を図っていく考えである。

【組合】会社の各間合いについての考え方は？

→ **時間の短い区間、ゆとりのない作業時間は良いとは考えていない。**勝田での間合拡大の成果もあり、引き続きモビサなどへの丁寧な説明を行い、理解を得られるようにすることも設備部としての仕事と考える。**必要な予算の確保は出来つつあるが、作業員の確保に課題がある。**パートナー会社などと連携し作業員の確保に努めていくなど継続的に取り組んでいく。

【組合】踏切バッテリーの交換についての進捗状況はどうなっているのか。

→ 常磐線は57%、水戸線は44%が交換済みである。この1年で約20か所の交換を実施。もともとのスケジュールに近づきつつある。概ね2031年までの終了を予定している。

【組合】バッテリー交換後の状況はどうなっているのか。また48時間ルールは改善は図れるのか。

→ 交換後のバッテリーの減りは良くなっており、今後トレースなどを行いながら見ていく。そもそも48時間ルールの緩和を目的とはしていない。**今回の交換による副産物として解消などをしていく可能性はある。**

3. 2012年にJR貨物会社と合意している「将来的には貨物列車4往復を常磐線に戻すが、当面の間は東北線等に迂回する」ことについて現状認識を明らかにすること。

【会社回答】

現時点において、長距離貨物列車の運転経路に関する変更はない。

【組合】この間貨物会社とどのように確認を行っているのか。

→ 当時、貨物会社と覚書を締結している。現在のところ変更などは無い。

【組合】現在進められている施策や取り組みなどは貨物列車の運行は加味しないで検討されているものなのか。

→ **現状は貨物列車が走らないという状況で施策を考え進めている。**

【組合】今後、貨物列車が再開となる場合の判断はどのようになるのか。

→ 今のところそのような話はないが、再開となる場合は協議を踏まえ総合的に判断することとなる。しかし、設備としても間合確保の必要性はあることから様々な議論はしていく。

4. ブロック作時帯に関して今後の導入計画を明らかにすること。また、保守間合いの確保に向けて、2024年ダイヤ改正以降の各系統での取り組みや考え方を明らかにすること。

【会社回答】

2025年3月15日より常磐線勝田～いわき間にブロック作時帯を新たに導入する。なお、保守間合いは、列車ダイヤへの影響があることから、引き続き関係箇所と調整を図っていく考えである。

【組合】ブロック作時帯についてはどのような箇所議論され進められているのか。

→ 月一回の保安担当者会議にて議論し、会議の内容を各系統で持ち帰り、議論をしてもらっている。

【組合】現場では噂程度で話が出ているが、具体的な説明などは無い。どのように考えているのか。

→ 現場長など上からと、各担当からの下からの情報共有を行っている。しかし、**説明が行き届いていない状況になっていることは改めて現場に伝える。**

【組合】系統ごとにどのように進めていくのか。

→ やり方や進め方は系統によって変わる部分があるため、系統ごとにやり方や現状は伝えていく。

【組合】大宮支社との境界部分でのブロック作時帯やブロック線閉等の齟齬が発生しているが把握はしているのか。

→ 把握している。大宮支社の考えもあり統一は難しいが、各パートで行っている調整は引き続き取り組んでいく。